

首都圏北部4大学連合（4u）

平成21年度 産学官連携事例講演会

～ 地域ブランド創出に向けて ～

この度、国立大学法人 群馬大学・宇都宮大学・茨城大学・埼玉大学の連携による「産学官連携事例講演会」を開催いたします。

4大学（地域）を中心とした特徴ある産学連携事例を紹介し、地域ブランド化や地域産業活性化、地域中小企業の技術力・ブランド力向上等に寄与することを目的とするもので、地域産業活性化、企業の特徴創出、差別化商品開発等へ貢献した事例や海外展開事例を紹介いたします。

ご多忙のところ恐縮ですが、是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

◆日時：2010年2月23日(火) 10:30～17:10

◆場所：桐生地域地場産業振興センター 第2ホール(3F)
(群馬県桐生市織姫町2番5号)

◆参加費：無料 (交流会参加は、実費を申し受けます)

※裏面の参加申込書にご記入の上、FAXにてお申し込み下さい。

◆プログラム：

1. 特別講演

10:40～11:10 文部科学省 研究振興局 研究環境・産業連携課長 柳 孝 氏

11:10～11:40 経済産業省 関東経済産業局 地域経済部長 吉澤 雅隆 氏

2. 産学官連携事例発表 (発表35分、質疑応答5分)

※発表テーマの概要は、裏面をご覧ください

(12:20～13:30は、休憩時間)

1	11:40～	群馬大学 大学院工学研究科 社会環境デザイン工学専攻 教授	鵜飼 恵三	石膏ボード廃材の地盤改良材としての再生利用法の開発
	12:20	(株)黒岩測量設計事務所 専務取締役	樋口 邦弘	
2	13:30～	茨城大学 農学部 資源生物科学科 教授	米倉 政実	地域農産物を有効活用した「メロン羊かん」の開発・商品化
	14:10	亀印製菓株式会社 製造部 取締役部長	小栗 満男	
3	14:10～	宇都宮大学 オプティクス教育研究センター 特任研究員	塚原 直樹	超音波を用いた鳥獣撃退装置の評価と効果のメカニズムの解明
	14:50	株式会社モハラテクニカ 代表取締役	茂原 純一	
4	15:00～	埼玉大学 大学院理工学研究科 人間支援・生産科学部門 教授	綿貫 啓一	バーチャルトレーニングとOJTを融合した熟練技能伝承システムの開発
	15:40	児玉鋳物株式会社 代表取締役社長	児玉 洋介	
5	15:40～	群馬大学 大学院工学研究科 応用化学・生物化学専攻 教授	粕谷 健一	小麦ブランブレッド ー未利用バイオマスから生まれた群馬発機能性食品ー
	16:20	共同組合群馬炊飯センター GSパンセントラル工場 ゼネラルマネージャー	岡部久美子	
6	16:20～	財団法人日立地区産業支援センター 事務局 係長	小山 修	日立地区中小企業への海外(中国)展開支援活動の事例紹介
	17:00	台北市コンピュータ同業協会 東京事務所 代表	吉村 章	

◆第2部 交流会 17:20～18:30 於：第1ホール(1F) (2,000円/人)

◆主催 首都圏北部4大学連合(茨城大学・宇都宮大学・群馬大学・埼玉大学)、首都圏北部地域産業活性化推進ネットワーク、

◆後援 関東経済産業局、群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県、(財)群馬県産業支援機構、(財)栃木県産業振興センター、

(予定) (財)茨城県中小企業振興公社、(財)埼玉県中小企業振興公社、東和銀行、足利銀行、栃木銀行、常陽銀行、

埼玉りそな銀行、武蔵野銀行、埼玉縣信用金庫



JR桐生駅から徒歩10分、

東武鉄道新桐生駅から徒歩20分、タクシー5分

◆発表テーマ概要

<p>1 石膏ボード廃材の地盤改良材としての再生利用法の開発</p>	<p>群馬大学大学院工学研究科 (株)黒岩測量設計事務所</p>	<p>教授 鶴飼 恵三 専務取締役 樋口 邦弘</p>
<p>リサイクルできない廃石膏ボードは管理型処分場への埋立処分が義務付けられ、2015年には300万トンになると言われる。廃石膏ボードを地盤改良材として大量に再資源化することを目的とした実用化研究を行い、成功を収めつつある。本研究の成果は循環型社会構築の一助となり、環境面と産業面において大きな貢献となる。</p>		
<p>2 地域農産物を有効活用した「メロン羊かん」の開発・商品化</p>	<p>茨城大学農学部資源生物科学科 亀印製菓株式会社</p>	<p>教授 米倉 政実 取締役部長 小栗 満男</p>
<p>茨城県はメロンの生産量が全国一であり、特に鉾田市周辺はメロンの一大産地となっている。そこでは規格外で出荷できないメロンの新たな活用方法が求められていた。そこで、この規格外メロンの有効活用ならびに「メロンの茨城」をPRするため、食料産業クラスター展開事業において、亀印製菓(株)を中心とした「メロン羊かん」の製品開発を共同で行った。その取り組み内容と茨城大学の役割・成果について発表する。</p>		
<p>3 超音波を用いた鳥獣撃退装置の評価と効果のメカニズムの解明</p>	<p>宇都宮大学オプティクス教育研究センター 株式会社モハラテクニカ</p>	<p>特任研究員 塚原 直樹 代表取締役 茂原 純一</p>
<p>(株)モハラテクニカが開発した鳥獣害撃退装置「Ultra Sonic」は、いくつかの現場で高い効果を挙げているが、効果のメカニズムは不明である。首都圏北部4大学連合主催の新技术説明会における、宇都宮大学の杉田教授と塚原研究員の「カラスの嫌がる音声を創る」の発表を機に、「Ultra Sonic」の評価と効果のメカニズムの解明の共同研究を開始し、現在、国より研究助成を受けている。</p>		
<p>4 パーチャルトレーニングとOJTを融合した熟練技能伝承システムの開発</p>	<p>埼玉大学大学院理工学研究科 児玉鋳物株式会社</p>	<p>教授 綿貫 啓一 代表取締役社長 児玉 洋介</p>
<p>ものづくりのための技能修得には、視覚的な情報だけでなく、五感による体験や複数の技能者間のコミュニケーションが重要である。そこで本講演では、マルチメディア技術・バーチャルリアリティ技術による形式知・暗黙知の視覚・聴覚情報呈示およびロボット技術による力触覚情報呈示を融合したバーチャルトレーニングシステムについて述べるとともに、そのバーチャルトレーニングシステムと職場訓練のOJTを融合した新たな熟練技能伝承システムを開発したので紹介する。</p>		
<p>5 小麦ブランブレッド –未利用バイオマスから生まれた群馬発機能性食品–</p>	<p>群馬大学大学院工学研究科 共同組合群馬炊飯センター</p>	<p>教授 GM 粕谷 健一 岡部 久美子</p>
<p>群馬ブランドの健康志向食パンを開発した。本製品は、以下の点を重視し開発された。 (1) 群馬県産作物の使用(地産地消) (2) 体によくないものを排除 (3) 未利用バイオマスを利用した機能性付与 (4) おいしさの追求 (5) サプリメントではなく、日常食することができるもの</p>		
<p>6 日立地区中小企業への海外(中国)展開支援活動の事例紹介</p>	<p>(財)日立地区産業支援センター 台北市コンピュータ同業協会</p>	<p>事務局 係長 小山 修 東京事務所 代表 吉村 章</p>
<p>中国蘇州市との経済交流の取り組みについて、過去6年間の状況を時系列的に説明します。また、ここで事業推進の中核となったキーマンの存在についても報告します。もはや中国は競争相手ではなく、有望な市場としてとらえ直した戦略が必要です。</p>		

本件に関する問合せは、群馬大学共同研究イノベーションセンター 前田 または 伊藤 までお願い致します。

TEL : 0277-30-1669、FAX : 0277-30-1192、e-mail: innovation@jimu.gunma-u.ac.jp

----- (お申し込み: 下欄に必要事項を記入し、FAX送信をお願い致します) -----

FAX : 0277-30-1192 群馬大学 共同研究イノベーションセンター 行

申込期限 2月18日(木)

◆参加申込書

貴社名 _____ 業種 _____ TEL _____

住 所 _____ ご紹介元 _____

参加者名		
役 職		
e-mail		

* 本調査の内容は、首都圏北部4大学 産学官連携事例講演会の開催に際してのみ利用致します。